

政府見解には従う

互助会と話し合いも

ソル語江入専務

近く出ることが予想される水俣病の政府見解について、チッソ株式会社の入江寛二専務は九日、東京・丸の内の神本社で次のように語った。この中で同専務は「政府見解が出ればそれに従い、患者互助会代表と話し合う用意がある」と言明した。

一 政府見解が出たときの会社の態度を知りたい。

水俣病と水俣工場廢水との科学的な関係付けは、厳密な意味では

まだきていない。しかし関係があるのでないかという一応の推定はできるので、補償に応じていける。その配分方法や金額について

まだわからないが、たゞ政府見解は最終的結論とでもいべきものだから、患者互助会代表と話し合うつもりでいる。

会社は見舞い金を出したからあと問題があることは知っているが、会社は見舞い金を出したからあとは知らないという態度をとったことは一回もない。見舞い金の物価値上がりによるスライドも過去三回行なってきたし、その上げ幅も総理府統計の値上がり率より割上回っている。こんじきの態度

一部で会社が社内実験の結果を隠したといわれているが。そんなことはない。会社は化学工業場で分析能力はある。しかし病理的なことの実験はできない。

だから工場内病院の実験結果は全部九大に送った。その九大の結果は、神経障害はタリウムでもマンガンでもセレンでも、もちろん有機水銀でも起こるが、水俣病患者の病理と完全に比定できるものではないということで、隠した覚えなし全然ない。しかし、当時水俣湾の魚を食べると発病するということは実験結果から出でているので、一応の推定によって補償に応じたのだ。

一 今後の患者との話し合いの方向について。

それは見解が出てからのことだ。ただ患者の中で大きくなり、障害もそうひどくない人は、補償

とは別に工場に採用していきたい。現に何人かすでに採用している。
(東京支社)